

重点目標を達成するための今年度の取り組みと評価基準・評価結果

A 重点	C短期経営目標 (年度末までにどの ような状態にするか)	具体的な方策	具体的な取り組み		成果		自己評価				学校関係者による評価		
			評語	取組に関する指標 (可能な限り数値で)	評語	成果指標(可能な限り数値で)	取組指標		考察(コメント)	改善策	評語	主な意見	
							中間	年間					中間
1 規範意識の向上	道徳授業地区公開講座、学校公開での授業公開を含め、年間最低でも2回の道徳授業公開を全校級で行うことで教師、児童、保護者の道徳教育への意識を高めていく。	7月の道徳授業地区公開講座の他に、土曜学校公開において道徳授業の公開を行い、地域・保護者による評価を行う。	A	教職員の実施状況で80%以上	A	道徳教育についての保護者アンケートでA、Bが80%以上	A		B	道徳教育推進教員のリーダーシップの元、教員の道徳授業についての意識は着実に向上している。学校公開での道徳授業も定着してきた。	提示資料の蓄積、保管、共有を進めているが、保管場所や保管の仕方の工夫がさらに必要。師範授業等、道徳授業の授業力を高めて行く。	A	◎元氣な挨拶について ・元氣な挨拶ができていて大二中の生徒の成果は、小学校からの積み重ねがあるからだと考える。 ・児童館でも、名前を呼ぶと返事も大きくなってきている。
			B	教職員の実施状況で70%以上	B	道徳教育についての保護者アンケートでA、Bが70%以上							
			C	教職員の実施状況で60%以上	C	道徳教育についての保護者アンケートでA、Bが60%以上							
			D	教職員の実施状況で60%未満	D	道徳教育についての保護者アンケートでA、Bが60%未満							
	全ての学級、学年の規律が整い、児童の自主的活動を促すとともに集団活動が円滑に行われるようになり、学校公開等を通じて地域・保護者の評価を得る。	5月の運動会に向けて学級、学年の規律を整え、児童の自主的活動を促すとともに集団活動が円滑に行われるようになり、12月の保護者アンケートでその成果を確認する。	A	教職員の自己評価で達成度80%以上	A	保護者アンケートでA、Bが80%以上	B		B	「気持ちの良い挨拶」、 「元氣な返事」については ずいぶん向上し、集団規律も整ってきたと考えるが、個々には危険な行為や器物破損等の行為が見られる。	特別な支援が必要な児童の指導や、アンガークントロール等につ引き続き教員の研修を重ね、トラブルを未然に防ぐ体制を整えていく。	A	
			B	教職員の自己評価で達成度70%以上	B	保護者アンケートでA、Bが70%以上							
			C	教職員の自己評価で達成度60%以上	C	保護者アンケートでA、Bが60%以上							
			D	教職員の自己評価で達成度60%未満	D	保護者アンケートでA、Bが60%未満							
	月単位、学期単位での生活目標を立て、その達成度について定期的自己評価・相互評価を行うことで、児童が日常的に自己の成長について振り返ることができるようにする。	月単位、学期単位の生活目標についての達成度を測定し、自己認識を高める。	A	各学級での取り組み状況80%以上	A	生活に関する児童のアンケートでA、B評定80%以上	B		A	個々の児童の目標を持たせる活動はほぼ定着している。振り返りについては2学期末以降に成果を検証したい。	5、6年の移動教室後の振り返りや、各学年での学年活動の振り返りを確実に行うことで児童の成長を促していく。	A	
			B	各学級での取り組み状況70%以上	B	生活に関する児童のアンケートでA、B評定70%以上							
			C	各学級での取り組み状況60%以上	C	生活に関する児童のアンケートでA、B評定60%以上							
			D	各学級での取り組み状況60%未満	D	生活に関する児童のアンケートでA、B評定60%未満							
2 学力の向上	小中一貫教育研究、校内研究において、全教科で三校合同研究を行い、校内では算数科で研究授業を行うことで教師相互の学び合いを促進し、教師が積極的に授業を公開するようになる。	6月、9月、11月に校内研究授業を行い、6、9月の小中一貫教育研究に参加し、課題改善カリキュラムを作成する。	A	教職員の自己評価で達成度80%以上	A	学習に関する児童のアンケートでA、B評定80%以上	B		A	校内研究では全体研究において1回の講師講演、2回の研究授業を行い、学び合うことができた。小中一貫教育研究では、全教科での課題改善カリキュラムを作成することができた。	校内研究においては11月に3回目の研究授業を行い、成果と課題を明確にしていきたい。2月の小中一貫教育研究グループ発表に向けて準備をしている。	A	・アンケートの結果から、自己評価は、妥当な評価だと考える。
			B	教職員の自己評価で達成度70%以上	B	学習に関する児童のアンケートでA、B評定70%以上							
			C	教職員の自己評価で達成度60%以上	C	学習に関する児童のアンケートでA、B評定60%以上							
			D	教職員の自己評価で達成度60%未満	D	学習に関する児童のアンケートでA、B評定60%未満							
	若手教員対象のOJT研修とともに、初任者研修、2、3年次研修、10年経験者研修、教師道場等の研修の成果を学校全体で共有し、各教員が自己の力量の向上を実感できる。	初任者研修、2、3年次研修、10年経験者研修、教師道場(理科)研修へ校内の各教員が関わり、授業力向上に努める。	A	教職員の自己評価で達成度80%以上	A	授業についての保護者アンケートでA、Bが80%以上	B		A	各研修における研究授業や管理職による授業観察への参観は参加率が高くなっている。他校への研究授業への参加も必ず複数で参加するようになっている。	教師道場の研究授業への参加や研究協議会への参加はなかなか難しかった。一人一人の教員が一つでも多く授業研究に関われるよう機会を積極的に提供していく。	A	〈その他〉 ○地域の環境として ・ボール遊びができる公園が少ない。 ・「〇〇禁止」などの否定語の言葉ばかりだと、子供の心が心配。 ・チャイムや音楽等の音量が大きいのが気になる。教室や校庭の音量を調整できないか。
			B	教職員の自己評価で達成度70%以上	B	授業についての保護者アンケートでA、Bが70%以上							
			C	教職員の自己評価で達成度60%以上	C	授業についての保護者アンケートでA、Bが60%以上							
			D	教職員の自己評価で達成度60%未満	D	授業についての保護者アンケートでA、Bが60%未満							
	各学級で基礎・基本の定着を図るために日常的に東京都のベネッセドリルを活用した指導を行う。また、図書館資料やICT資料を活用した課題解決学習を日常的に行う。	ベネッセドリル(算数)で学年のまとめテストを年3回行う。図書やICTの資料を活用する学習を学期に1回以上行う。	A	教職員の実施状況で80%以上	A	学習についての「児童アンケート」でA、B評定80%以上	A		B	全学年でベーシックドリルまとめのテストを実施し、結果を集計することができた。	年間3回のベーシックドリルまとめテストを行うことで算数の学習の定着度を定期計測していく。	A	
			B	教職員の実施状況で70%以上	B	学習についての児童アンケートでA、B評定70%以上							
			C	教職員の実施状況で60%以上	C	学習についての児童アンケートでA、B評定60%以上							
			D	教職員の実施状況で60%未満	D	学習についての児童アンケートでA、B評定60%未満							
3 人との関わり合いの充実	どの学級、どの授業においても活発な話し合い活動を行うことで、児童一人一人が学ぶ楽しさを実感し、互いを尊重する態度が身につく。	全ての授業に於いて、児童の主体的な活動を重視し、児童の授業への満足度を高める。	A	授業観察での実施状況80%以上	A	関わりについての児童アンケートでA、B評定80%以上	B		B	授業の中での話し合い活動は取り入れているが、決して効果的ではない場合が多い。児童の考える力を伸ばす実践が必要。	主任・主幹教諭によるOJTを通して授業での効果的な話し合いについて研修をしていく。	A	△3項目目について ・自己評価が、低いと感じる。先生方が忙しいのは、理解している。先生方が、地域を学校に呼び込んで授業に関わるようにすれば自己評価も上がると思う。
			B	授業観察での実施状況70%以上	B	関わりについての児童アンケートでA、B評定70%以上							
			C	授業観察での実施状況60%以上	C	関わりについての児童アンケートでA、B評定60%以上							
			D	授業観察での実施状況60%未満	D	関わりについての児童アンケートでA、B評定60%未満							
	全校集会や運動会、展覧会、各学年行事等で学級の枠を超えた活動を行い、児童一人一人の活躍の場を特定し、児童相互の認め合いができる環境を整え、他人を敬う態度が身につく。	全ての行事において、児童各自の取り組み目標を明確にし、学級、学年の達成目標のもと、主体的に取り組む児童を育てる。	A	教職員の取り組み状況80%以上	A	学校行事についての保護者アンケートでA、Bが80%以上	B		A	1学期に運動会を終えた。どの学年も目標を持って取り組むことができた。最後の数日間での児童の高まりはその成果であると考ええる。	3学期の展覧会に向けて児童は目標を持って取り組んでいる。「物語」のテーマのもと、達成感が持てるものにしていく。	A	・地区祭や源流祭りなど児童の発表があるものについては、もっと見に来て欲しい。 ・地域とのつながりをもつためにも、先生方も名刺を作った方が良い。また、書類の受け取りや伝言、電話対応などの時、受けた人が責任をもつという意味でも名前を名乗った方が良い。「〇〇が承りました。」
			B	教職員の取り組み状況70%以上	B	学校行事についての保護者アンケートでA、Bが70%以上							
			C	教職員の取り組み状況60%以上	C	学校行事についての保護者アンケートでA、Bが60%以上							
			D	教職員の取り組み状況60%未満	D	学校行事についての保護者アンケートでA、Bが60%未満							
	まず大人(教職員)が接遇マナーを徹底し、明るく笑顔で積極的に日常的に挨拶を行うことで、学校に親和的な環境を整え、児童の人間関係作りをサポートし、学校内外で積極的に地域に関わる児童を育てる。	教職員が地域や人材との関わりを深めることで児童の地元町会、青少年育成事業、地域行事への参加も含め人との関わりを深める。	A	教職員の取り組み状況80%以上	A	児童についての保護者アンケートでA、Bが80%以上	C		A	地域とのつながりについての教職員の意識をさらに向上していきたい。	引き続き、年間のどこかで地域での児童の活躍の様子や地域の方の活動に職員が触れることを働きかけていく。	B	
			B	教職員の取り組み状況70%以上	B	児童についての保護者アンケートでA、Bが70%以上							
			C	教職員の取り組み状況60%以上	C	児童についての保護者アンケートでA、Bが60%以上							
			D	教職員の取り組み状況60%未満	D	児童についての保護者アンケートでA、Bが60%未満							

* 学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の観点で行う。

A 自己評価は適切である B 自己評価は概ね妥当であるが根拠資料が不足している C 自己評価と実態との差が大きい D 自己評価方法を見直す必要がある